

[シラス]

1. 経年経過

バッチ網漁業の漁獲量について、西薩海域では、平成 11 年の 5,450 トンをピークに急減し、平成 14, 15 年と 1,000 トンを下回り低調に推移しました。その後、平成 16 年は 3,507 トンと比較的好調でしたが、平成 17 年以降減少傾向に転じ、平成 26 年は 794 トンとなりました。その後、漁獲量は上昇傾向を示し、平成 30 年は 1,551 トンとなりました。

志布志湾海域では、平成 19 年まで増加傾向を示しましたが、その後、1,000 トン前後で増減を繰り返しながら推移し、平成 30 年は 956 トンとなりました。

2. 平成 31 年 1～2 月の漁況の経過

西薩海域では、ウルメシラス主体に 87 トンの水揚げで、前年の 92 %、平年の 116 %でした。

志布志湾海域では、カタクチシラス主体に 12 トンの水揚げで、前年の 38 %、平年の 8 %でした。

3. 平成 31 年 4～6 月期の見とおし

漁獲の主体は、カタクチシラスでしょう。来遊量は、西薩海域は前年・平年を上回り、志布志湾海域は前年を下回り、平年並でしょう。

(根拠)

西薩海域では本年 3 月の卵稚仔調査でのカタクチイワシ卵の出現状況、カタクチイワシ親魚の来遊状況から、前年・平年を上回ると考えられます。

志布志湾海域では、直近の漁模様から、好調だった前年を下回り、平年並と考えられます。

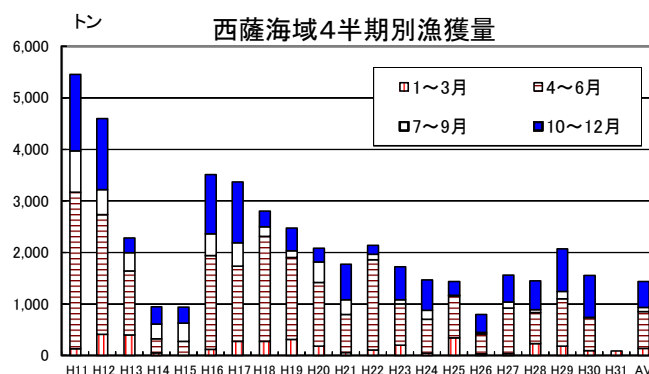
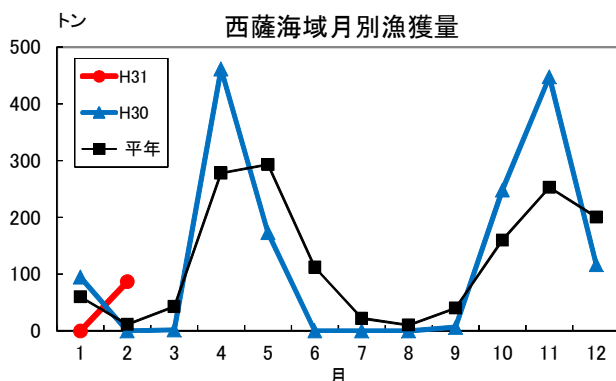


図 西薩海域バッチ網漁業の漁獲量変化(4 漁協計)

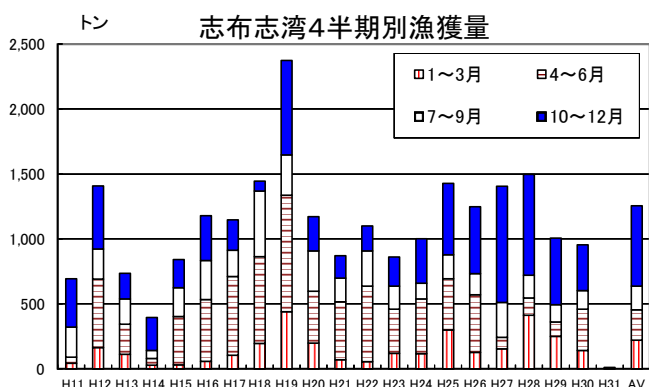
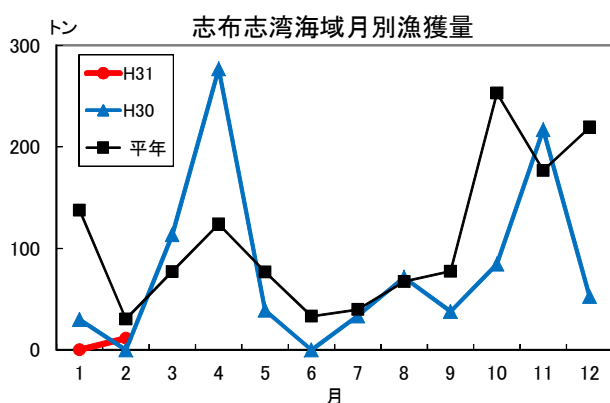


図 志布志湾海域バッチ網漁業の漁獲量変化(2 漁協計)

※平年値は過去 5 年の平均値(AV)、平成 31 年 2 月 28 日までの水揚量を使用